

# GINGA 通信



第37号【年2回発行】

- **ぎんが工房** 障害福祉サービス（就労継続B型・生活介護・日中一時）
- **きららベーカリー** 障害福祉サービス（就労継続支援B型）
- **コスモス** 障害者支援施設（施設入所支援・生活介護・短期入所・日中一時）
- **コスモス通所** 障害福祉サービス（生活介護）
- **びゅー** 居宅介護・行動援護・移動支援・日中一時支援 等
- **きらり** 放課後等デイサービス
- **相談室りゅうおう** 障害児者相談支援・自立生活援助・地域移行支援等
- **雀のお宿 I・II・III** 共同生活援助
- **雀のお宿** 認知症高齢者グループホーム
- **おひさま** 障害福祉サービス（生活介護）
- **らしりば** 障害福祉サービス（就労継続支援A型）
- **ミラテラス** 共同生活援助

社会福祉法人 **ぎんが福祉会**  
 〒400-0118 山梨県甲斐市竜王 267-3  
 TEL 055-278-2266 FAX 055-278-2267

## 社会福祉の原点 渋沢栄一

新型コロナウイルスの感染が拡大し始めてから1年半が過ぎ、私たちの生活も様変わりしました。7月以降は今まで以上に感染者が増え、山梨県内でもまん延防止等重点措置が発令され、今まさに出口の見えないトンネルに居るようです。1年前を振り返り、マスクと消毒液に困った生活を送ってきました。これから1年後はどのような生活を送っているのかと度々考える事があります。とにかく今は一人ひとりが出来る事をきちんとおこないながら、早めの収束を願うばかりです。

2021年NHK大河ドラマ「青天を衝け」の主人公、渋沢栄一は日本資本主義の父として知られている実業家ですが、実は医療と福祉にも深い関係をもった人です。渋沢は大蔵省（現在の財務省）で日本経済の基礎づくりに貢献し、明治6年に第一国立銀行開業・総監役⇒頭取に就任しました。その後、500近くの事業に関わったとも言われています。

渋沢が活躍した1920年（大正9年）までは、福祉がほとんど何もありませんでした。社会福祉協議会は1908年に中央慈善協会という名称で始まり、初代の会長が渋沢でした。民間人が自力で施設を設置し、生活困窮な人を支援しました。また、1871年（明治5年）生活困窮者を保護するための養育院（現在の東京都健康長寿医療センター）を創設し、初代養育院長を務めたのが渋沢です。養育院とは維新後急増した窮民を収容保護する建物で、ここから日本の社会福祉、医療事業に大きな足跡を残しました。日本の経済は渋沢を含め多くの先駆者の努力の積み重ねで発展しました。戦後生まれの私たちからすると先人の力があって今があるのだと思います。福祉も措置費の時代から支援費制度へ、そして、障害者自立支援法から障害者総合支援法へと変わりました。いつの時代も誰のために何をするのかを考える事は大切です。微力ではありますが、今私たちが取り組んでいる事も後世に繋げられればと思っています。

2024年には20年ぶりに新紙幣の図柄が変わります。「渋沢栄一と東京駅舎」が新1万円札として決定しました。今回の紙幣には世界初となる偽造防止技術が採用されたのと同時に、ユニバーサルデザイン（額面の数字が大きく、指の感触でお札の種類が分かる）にも意識した内容になっています。

色々な意味で渋沢栄一は暫く話題の人物になりそうです。

ぎんが工房施設長 内藤 和恵



## ぎんが工房



ぎんが工房の生活介護事業は 8 月現在で 25 名の仲間がおり、令和 3 年度からは 4 つのグループに分けて活動を行ってきました。1 グループ 5 人前後の少人数制で活動を行うことで、利用者同士のコミュニケーションが増えたり、一人ひとりの小さな変化に気がつきパーソナライズされた支援ができるようになってきていることを実感しています。支援側からすると一貫してきめ細かな支援がしやすくなり、関わる支援員が固定されることで支援の幅が広がると思っています。それにはグループ別ミーティングの他、生活介護職員全体ミーティングを月 1 回行い、情報の共有や支援内容の確認ができるようにしています。

日々の活動では新型コロナウイルス感染症の影響が続いていますが、“制限されて活動ができない”ではなく、“制限された中で楽しむ活動”を考えて活動を行っています。5 月にはマクドナルドのドライブスルーを利用しました。思うように外出ができない中、ぎんが工房より少し離れたアルプス通り店へドライブを兼ねて行きました。メニューの中から購入したいものを事前に決め、購入したものはぎんが工房に戻ってから食べました。なかなか食べる機会がない人もおり、みんな嬉しそうでした。6 月には“地産地消ピザ作り”を行いました。準備ではドラゴンパークへ「赤坂トマト」を買いに出かけ、初めてコインロッカーでの買い物をしました。翌日に赤坂トマトをたっぷり使ったピザをつくり、野菜が苦手な方もあっという間に食べ大好評でした(ベースは餃子の皮を使用し、トッピングにトマト、玉ねぎ、ピーマン、コーン、チーズを載せて完成)。コロナ渦ではありますが、感染対策を行いながらみんなが楽しめる活動を提供していきたいと思っています。



## きららベーカリー



きららベーカリーでは、山梨県共同募金会様より令和 3 年度配分として、6 月下旬にステンレス製テーブルならび棚を寄贈して頂きました。今まで使用していた作業テーブルは高さ調整が出来ず、腰への負担も大きかったです。また、床にスノコを置いて対応していたことで、掃除の際にはその都度スノコを移動しながら行っていました。導入後は、テーブルの奥行を番重のサイズに合わせ、高さを作業者に合わせて調整したことで作業が随分と変わりました。また、床から 15cm 上げたことで掃除もしやすくなりました。

昨年より HACCP(ハサップ・・・衛生管理のマネジメントシステム)を導入したことで、これまで以上に衛生面には気を付けていきたいと思っています。

赤い羽根共同募金に寄付して下さった県民の皆様の善意に感謝をし、大切に使用させていただきます。





昨年 12 月に開所したミラテラスも、おかげ様でもうすぐ1年を迎えます。新型コロナウイルスの影響で様々な制限がかかる中、皆と楽しい時間を作るには何が出来るのかを考え感染対策を取りながら取り組みを行っています。季節感を感じられるように七夕飾りを作り短冊に願い事を書きました。願い事は沢山あり過ぎてと話し、願い事から今後の夢、恋愛など様々な話題に繋がり、大変盛り上がる企画となりました。



ミラテラスの利用者は皆食べる事が大好き！食べ物への関心がとても強く、食べ物のお話はいつも尽きる事はありません。そんな中、今回は手巻き／夏野菜焼き／鬼まんじゅう／かき氷等を楽しみました。その他にも日々の食事の中で、利用者主体で得意料理を披露してもらう機会を設け、キーマカレーや煮物など腕を振るって頂きました。出来は上々で「美味しい！」「すごい！」「また食べたい！」等の声に「美味しいと言って食べてもらえるのって嬉しいね！」と満面の笑みを浮かべ話す姿も見られました。「また作りたい」と次への意欲にも繋がる事が良い機会となっています。



今年の 6 月で開所 1 年を迎えることができました。1 年前と比較すると利用者数やクッキーの生産量も大幅に増え、日に日に賑やかになっているらしりばです。新しい職員も増え「どこから通っていますか？」などと利用者自ら声を掛け、温かく迎え入れてくれました。また、クッキーの生産においては各工程でのスピードが格段と上がり、以前と同じ量を生産していても掛かる時間が短くなっていることや、材料のロスも減り、ひとり一人の技術が上がっていることを実感しています。

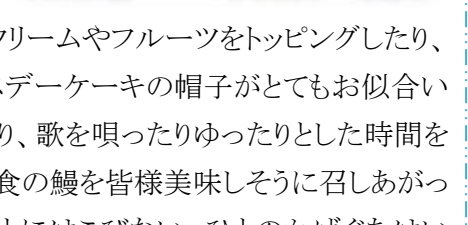


7 月には隣接するミラテラスと合同で防災訓練を実地しました。改めて避難経路等の確認を行い、職員・利用者共に、防災に対する意識を高めました。以前、防災訓練を行った際に「出入口の段差が見えづらく危ない」という声があったため、スプレーで色を塗る対策をとり、職員が手を取りながらスムーズに避難することができました。また、一部自動ドアの出入り口があるため停電時使用できない可能性を考え、避難する際には使用しないことなど再度確認しました。近年水害など自然災害のニュースを目にすることが多くなってきています。引き続き防災意識を高め、緊急時にしっかりと対応できる体制をとっていききたいと思います。

## グループホーム雀のお宿 (高齢者)



コロナ禍、外出が困難な状況ですが、今年も桜を見ていただきたいと思います、施設の近くの散策、ドラゴンパークに少人数でのんびりお花見を楽しみました。桜の季節は日本の春の素晴らしさを感じます。毎月15日にはお誕生会をしています。いつものおやつより少し豪華に、ロールケーキにホイップクリームやフルーツをトッピングしたり、フルーツゼリーやどら焼きなど、甘いものは皆様大好きです。可愛いバースデーケーキの帽子がとてもお似合いです。春の柔らかい日差しの日には日向ぼっこ、室内では折り紙を折ったり、歌を唄ったりゆったりとした時間を過ごされています。土用の丑の日、お元気でこの夏も過ごせますように、夕食の鰻を皆様美味しく召しあがっていただきました。新聞を読んだり読書をされる方もいます。「うそはいわない、ひとにはこびない、ひとのかげぐちはいわぬ、わたしにはできることばかり、〇〇美」と職員がちょっとアレンジして読むと大笑いされるようなユーモアのある方や、写真をとるので笑顔でお願いしますと「泣き笑いー」と言われたり、楽しい雀のお宿です。楽しく生活されますようにと願っています。



## グループホーム雀のお宿 (障がい者)



今年度、新メンバーを4名迎えました。皆さんは優しく受け入れて、入浴や食事・洗濯などの日常を気遣って下さり、声かけやお世話をしてくれています。ぎんが工房へ通所しているメンバーが集まる本館の玄関では、皆さんが送迎車を待つのでとてもにぎやかです。普段口数の少ない方が新メンバーに「ここに座りな」と合図してくれている微笑ましい場面も見られました。体験から本入所になり5ヶ月から半年、皆様が新しい生活に慣れてこられた様子が伺えます。7月下旬からお盆前までの3週間、本館の浴室を新しくするため工事が入りました。本館の6名のメンバーも新館の浴室を使用しました。移動や時間を気にしながら、スムーズに対応され、自分中心ではなく他のメンバーを気遣ってくれることも多く見られました。新館のメンバーも慌ただしい状況でも、入浴や洗濯のタイミングを調整してくれていました。今年は夕立が多く停電でお湯が止まるハプニングもありましたが、新館のメンバーが本館へ職員を呼びに来てくれたりと、皆さんが他のメンバーの事を思いやる姿など素晴らしいと感じることばかりです。皆さんが生き生きと活動できるよう支援していきます。



# おひさま



5 月 29 日、毎年恒例の報告会を行いました。今年度も感染対策に努め、時間を短縮して行いました。この日の為に、利用者は発表する原稿の内容を皆で考え、何度も練習したり、プラカードも手作りしました。当日は、最初は皆さん少し緊張気味でしたが、途中、発表の内容に保護者から笑いも起きたりと、和やかな雰囲気の中、会は進行していきました。成人のお祝いでは、今年、成人を迎えた利用者のプロフィールムービー、親からの手紙、担当者からの手紙に会場は感動。笑いあり、涙ありの報告会となりました。



成人式を迎えました🍄

また、グループ企画として遊亀公園へ行きました。近くで見る動物の迫力に驚いたり、可愛さに思わず笑顔。感染予防の為、昼食は施設に戻り、The CAFE LDK のテイクアウト。短時間の外出でしたが、皆さん楽しんでいる様子でした。今後も利用者の皆さんに楽しんで頂けるような企画を考えていきたいと思ひます！



## 相談室りゅうおう 🍁🍂🍃 医療的ケア児等コーディネーターについて 🍃🍂🍁

医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律が令和 3 年 9 月 18 日に施行されました。医療的ケア児を子育てする家族の負担を軽減し医療的ケア児の健やかな成長を図ると共に、その家族の離職を防止する目的で作られました。そしてこの法律が施行されることにより、今まで地方自治体や関係省庁に「努力義務」とされていた医療的ケア児への支援が「責務」となりました。強制力のより強いものとなった事で生活の幅が広がり、ご本人やそのご家族が安心して地域生活を送れるようになるのではないかと期待しています。

相談室りゅうおうでは、医療的ケアの必要な方を数名受け持っている事もあり令和元年度より 2 名がコーディネーター研修を受け、甲斐市内のコーディネーターとしての活動や、甲斐市自立支援協議会の医ケア部会などに参加しています。ご存知の方もいらっしゃると思いますが「安心していいよ～パパ・ママになるための第一歩に～」という甲斐市のガイドブックの作成に微力ながら協力させていただきました。医療的ケアが必要なお子さんをもつご家族が中心となり、地域で安心して生活ができるように作成されたガイドブックです。先輩パパ・ママからの貴重なメッセージや各種制度について・乳幼児期の育児のサポートになる情報などが分かりやすく掲載されています。

まだ新型コロナウイルスの脅威が収まりそうにありませんが、引き続き、地域で障がいのある方、そのご家族が安心して生活できるような取り組みを行っていきたく思います。

※ スマートフォンをお持ちの方は、右の QR コードから甲斐市のホームページに掲載されている、医療的ケアが必要な児童を子育てするために役立つ、サポート体制や制度・情報を掲載したガイドブックをご覧ください。

◇ QR コードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。



表紙～P18

P19～P34

P35～最後

# コスモス入所

入所では、コロナ禍のため日中レク活動が思うようにできず、利用者から「今年も夏らしいことができないのかな～。なにかやりたいな～」と、その要望を叶えてスイカ割り・花火を計画しました。もちろん感染対策を徹底して行いました!!!!

スイカ割りは、ほぼ全員が参加できました。割ったスイカはみんなで食べて「夏らしいことができてよかったよ～！スイカ美味しいね！」と楽しむ姿がみられ、開催出来て本当に良かったなと思います。



残念ながら花火は悪天候の為数名の方しか参加できませんでした。また、皆さんが楽しめる活動を考え、支援していきたいと思います。

感染防止対策強化が続いているため、ご家族との面会が思うようにできずにおりますが、この笑顔を見て安心していただけたらと思います。

# コスモス通所

コスモス通所では、コロナ禍で感染予防に気を配り活動を行っています。今年度は、夏らしいことをしようと、水風船や水鉄砲での的当てゲームをして楽しみました。暑い中でしたが、いくつかのグループに分かれ、密にならないよう実施しました。初めは的をめぐらして打っていたものの、いつしか職員が的に…！自ら水をかけてビショビショになる方も！濡れても良いようにちゃんと着替えを持参されていました。最近、新しくレクレーションに仲間入りしたのが「陣地取りゲーム」。お手玉を投げてタイマーが鳴った時点で風船を相手の陣地へ入れた方の勝ちというルールなのですが、利用者と一緒に職員も熱くなり真剣勝負で大盛り上がりでした。そしてやっぱりみんな音楽が好き！音楽療法では、楽器の音色を聴いたり、実際に触れて演奏したりと楽しい時間を過ごしています。また、通所職員によるリズムも人気です！ウクレレ講座で実際にウクレレに触れて演奏をしたりみんなでバルーンをしたりして楽しんでいます。

引き続き、感染対策をしながら、皆さんに楽しく過ごして頂けるような活動を提供していきたいです。



的当てゲーム



陣地取りゲーム



音楽療法



リズム



# びゅ〜



今年度も、引き続き新型コロナウイルスが収まらず、イベントや行事等がなかなかできませんでした。その中でも少し外出が出来たので紹介します。

4月、ドラゴンパークでさくらまつりが行われており、周辺に屋台が出ていたので人込みを避けながら行ってきました。チョコバナナを買い、びゅーへ戻って食べました。短時間でしたが少しお祭り気分が味わえました。

5月は小淵沢のほうへ電車撮影に行ってきました。去年も行きましたが、今年は違う場所から撮影しました。角度を変えながら撮る位置を考え、今か今かと待ちわび通る電車をカメラに収めていました。「ブルーサンダーだー」と通らないと思っていた電車が通りとても喜ばれていました。



6月は花の都公園へ行きました。駐車場内にもポピーやヤグルマギクという青いお花が咲いていてとてもきれいでした。中に入りお花を見る予定でしたが、その周辺にあるお土産コーナーを少し見て満足した様子。その後、山中湖にドライブへ行きました。少し降りて散歩をしながら湖や景色を眺めました。「きれいー」と、とてもいい笑顔を見せられました。

びゅーでは、今後も新型コロナウイルスの感染防止対策をしっかりと支援していきたいと思えます。



# きらり

## ..... 放課後等テイサービス .....

コロナ禍で外出などの活動制限が必要でしたが、きらりの子どもたちは元気に楽しい夏休みを過ごしました。夏休みといえば水遊びです。最初は水に足をつけただけで驚いた表情をしていた子も、慣れてくると遊び方がどんどんダイナミックになっていきました。手足で水面をたたいたり、頭から水をかぶってみたり、遊び方はひとりひとり違いますがみんな良い笑顔でそれぞれの遊びを楽しんでいました。

大きなスイカでスイカ割りも楽しみました。まず、スイカに触れてみて「お顔より大きいね」と、その大きさにびっくりです。棒で何回も叩いてみますが、ヒビは入ってもなかなか割れません。最後に高校生のお兄さんに叩いてもらって上手に割ることができました。みんなで食べるスイカは甘くてとても美味しかったです！

今年の夏もあっという間に終わってしまいました。感染予防に注意しながらのため、できない活動もありましたが限られた中で楽しくできた活動もたくさんあります！

子どもたちにとって、きらりで過ごした夏が楽しい思い出になっていたらいいなと思います。



★ 相談支援専門員になって ～ある日の経験から学んだこと～



2019 年 12 月に、ぎんが福祉会より中央市にある障がい者相談支援センター「穂のか」へ出向し、職員の方々に支えられながら、地域の皆様と関わらせていただいております。相談支援専門員の研修を受け、先輩相談員 2 名と一緒に業務を行っています。穂のかでは、対象年齢や相談内容も様々あり、初回面談時では、ある程度頭の中で相談者が希望する生活のイメージを共有しながら話をしていきます。初めは先輩相談員の横につき相談員の姿勢や業務などを学びました。徐々に一人で面談対応を任されるようになって、しばらくした頃の話をしたと思います。

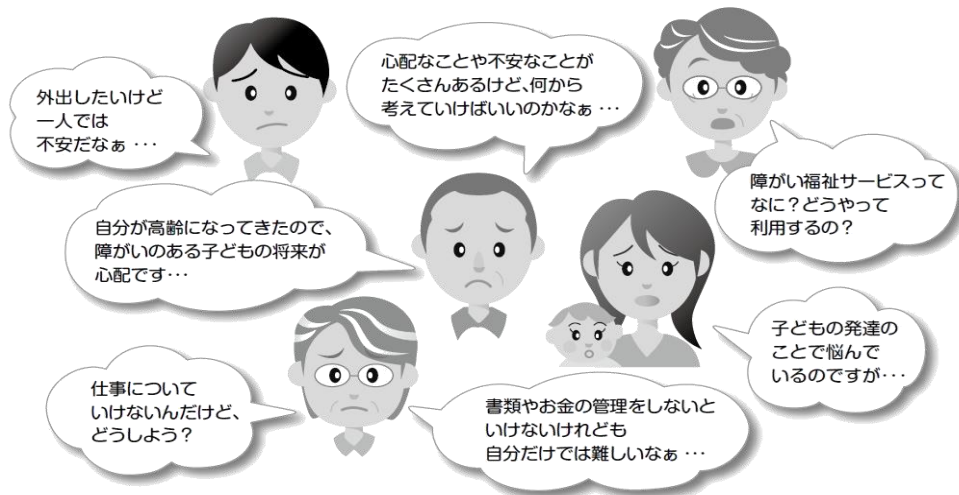
春の暖かな風が吹く頃、ご両親と小学 2 年生の女の子が相談に来所されました。ご両親は放課後等デイサービスを利用希望とのことで、私の頭はすぐに「早く事業所を探さなくては！」「タイミングを逃してしまうと行ける場所がなくなってしまう…」と勝手な『私の心配』が、自分を焦らせてしまいました。私はご両親の話を聞き、事業所のパンフレットを何枚かテーブルに並べ、沢山の言葉を使い、事業所の説明を行い、『自分は仕事をしている』という充実感を得ている最中、「私はここへ行かないといけないの？」「今行っているところには行けなくなるの？」と女の子が自分の気持ちをぶつけてくれました。私はこの言葉を聞いて、ようやく自分が『相談者を置き去りにした』事を肌で感じるようになりました。そこですぐに『失敗した！』と自分で分かった時の「女の子への申し訳なさ」や、「自分の後悔」で本当に体が硬直して頭が真っ白になってしまいました。この後、先輩相談員へ相談をし、ご両親とは別で女の子から話を聞く機会を設ける必要があると助言をいただき、女の子と面談を行いました。「今のままが一番楽しい、好きなことたくさんできるよ」との言葉が聞け、すぐに各関係機関や病院へも確認を取り、ご両親への説明も丁寧にし、放課後等デイサービス利用はしないという結論に至りました。

この経験を次に生かしてしっかり相談者と向き合い、私の言葉を少しでも伝えることが出来るように成長していきたいと思っています。穂のかを後にする女の子が、私に向かって笑顔で手を振ってくれたこの日のことを決して忘れず、常に心に留めながら仕事をすることを教えたエピソードでした。

中央市・昭和町障がい者相談支援センター 穂のか 相談支援専門員 平野真琴

中央市・昭和町障がい者相談支援センター「穂のか」ってどんなところ？

中央市と昭和町の共同設置された障がい者相談支援センター「穂のか」は、中央市役所本庁舎敷地内に事務所があります。中央市・昭和町在住の障がいのある方やご家族からの相談を、相談支援専門員と一緒に考え解決するお手伝いをしています。また、当事者同士の交流の場として「れんげ会」や、社会全体が障がいに対する理解を深め、障がいの有無にかかわらず住みやすい地域づくりを推進するために、各種学習会等も開催しています。



編集後記 福祉会では、第 5 波による感染拡大により、再々度感染防止対策を見直し、利用者・ご家族の皆様のご理解とご協力を頂きながら全力で頑張っています。次の波が小さく済むように、正しい情報を得て、一人ひとりが感染しない行動を取り、自分自身や大切な人を守って生活していきましょう。

通信発行にあたり、今回も大勢の皆様のご協力をいただきありがとうございました。

《広報委員一同》